

## 平成 19 年度 学術ポータル担当者研修レポート

法政大学図書館事務部 多摩事務課 石川拓矢 (受講者番号: 13-1)

法政大学図書館事務部 市ヶ谷事務課 上田直人 (受講者番号: 13-2)

### (1) 発表資料の状況設定

研修当日には、以下のような状況を設定した。

「全学の教員を対象。講座単位、学科単位など比較的少数の教員グループを対象にして、機関リポジトリとは何か、機関リポジトリの目的と意義、などの共通理解を得るため、出来るだけ先方に出向いて説明するスタイルでのプレゼンテーションを頻繁に行う。対象者は一回に 10 名程度、発表 10 分質疑 10 分の 20 分程度を目処としたプログラムを作成する。」

### (2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

抄録：

最初に「本日のメニュー」を説明。次にリポジトリとは何か（一般的な意味と、学術機関リポジトリという文脈での意味の概略）を説明し、それを図により解説する。ポイントとして「(Googleなどで) 誰でも簡単に検索・アクセスできる」ということを強調する。次に、研究者へのお願いは「研究成果をリポジトリに投稿して欲しい」ことであり、その内容はテキストに留まらないと説明する。また、リポジトリ登録のメリットとして、「確実な保存、Googleなどからのアクセス、コスト削減 (の可能性)」をあげる。続いて、登録の具体的な流れを説明し、最後に「研究成果を世界に発信しよう」というスローガンを述べる。

講師からの助言：

プレゼンのパワーポイントの冒頭で「論文を登録しましょう！」となっていたところを、押し付けがましく感じられるのではないかと指摘いただいた。これを「してください！」と変更した。

### (3) リハプレゼンの概要

日 時：2007 年 11 月 15 日 (木) 15:30~16:00

場 所：法政大学市ヶ谷図書館 1 階ガイダンスルーム

発表者：上田直人

発表対象：図書館専任職員

参加人数：7 名

内 容：研修での発表に準じて行い、その場での意見聴取と簡単なアンケートを取った。(下記 (4) 参照)

(4) リハプレゼンへの反響

アンケートの内容（と結果）：(n=6)

Q1. 「機関リポジトリとは何か」について、理解できましたか？（数字に丸を。以下同じ）

1. できた(5) 2. ある程度はできた(1) 3. できなかった 4. どちらともいえない

Q2. リポジトリで「研究者に何が求められているか」理解できましたか？

1. できた(4) 2. ある程度はできた(2) 3. できなかった 4. どちらともいえない

Q3. リポジトリの「メリットは何か」理解できましたか？

1. できた(5) 2. ある程度はできた(1) 3. できなかった 4. どちらともいえない

Q4. プレゼン全般について、内容は適切でしたか？

1. 適切(6) 2. 不適切（以下に、改善点をご指摘願います） 3. どちらともいえない

Q5. その他、お気づきのことがあれば、以下に記述してください。

- ・教員にメリットを説明する際に、「Google でアクセス可能」ということを最初に持ってきた方がベター。「登録の流れ」のフローはちょっと分かり難い。イラストの置き方と矢印の方向の工夫が必要。  
字体がポップ体のところは、学生には良いが教員には受け入れられない人もいるのではないかな。
- ・10分程度の説明なので、「ある程度」にチェックした。画面が少し複雑だった。  
「世界に発信・公開」というところをもう少し早めに伝えた方が良い。  
Google との関係を詳しく伝えた方が良い。
- ・大学院生、学部学生は登録できるのか？（説明が無かったが）
- ・この説明では「図書館が主体で行っている」と思われてしまうのではないかな。

(5) その他

備考：今回のプレゼンはオリジナリティを重視して、自前で作成した PPT を使ったが、実際に研究者へのプレゼンを行う際には、先行大学作成の PPT を参考にして作り直したものを使用したい。特に内島講師の模範プレゼンでも使用された「編集・査読プロセスの例（北大提供）」、「物理学分野の OA 論文引用の優位性（D-Lib Magazine から抜粋）」など、研究者に訴求する内容のものを使いたい。

今後の予定：多摩図書館でも石川によるプレゼンを行う予定。

また、実際に研究者からの要求があれば（図書館からの PR も行っていくが）随時研究室等に出張してプレゼンを行う予定。

以上

(2007 年 11 月 19 日提出)